第６次江差町総合計画後期基本計画に向けた
アンケート調査結果報告書

江差町

目　次

１．調査の概要 1
（１）調査の目的 1
（２）調査の設計 1
（３）報告書の見方 1
２．調査の結果 2
あなた自身について（回答者属性） 2
地域での暮らしについて 6
まちの政策について 11
町政について 18
ご意見 25
（１）観光・景観に関すること 25
（２）こどもに関すること（８件） 25
（３）議会等との協働のまちづくりに関すること（３件） 25
（４）ごみ回収に関すること（４件） 26
（５）その他 26

１．調査の概要

(1)調査の目的

本調査は、現在策定に取り組んでいる第６次江差町総合計画後期基本計画の基礎調査として、江差町の現状や課題に対する町民の皆様からの率直なご意見等をお聞かせいただき、前期基本計画の総括や今後の施策検討に活用するために実施するもの。

(2)調査の設計

調査地域	江差町全域
調査対象	町内在住の 18 歳以上の男女
調査方法	郵送配付･回収
有効対象者数	1,000 名
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	令和6年8月
有効回収数	316 票
有効回収率	31.6%

(3)報告書の見方

○ 「割合」は、各項目の回答数を回答総数で除し、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示。このため、割合の合計が100%にならないことがある。

○ 複数回答の質問の「回答者数」は、回答総数ではなく回答者総数を表示。また、各選択肢の「割合」は、回答数を回答総数ではなく回答者総数で除しており、「割合」の「全体」は100%を超えるため斜線表示としている。

○ 回答者を限定する設問（特定の設問において特定の選択肢を回答した方を対象としているため）は、回答者数が調査対象者数を下回る。

○ 設問ごとの単純集計のほかに、属性ごとの傾向が見られたクロス集計を掲載している。また、クロス集計は、属性無回答者を除外して集計しているため、回答者総数と一致しない。

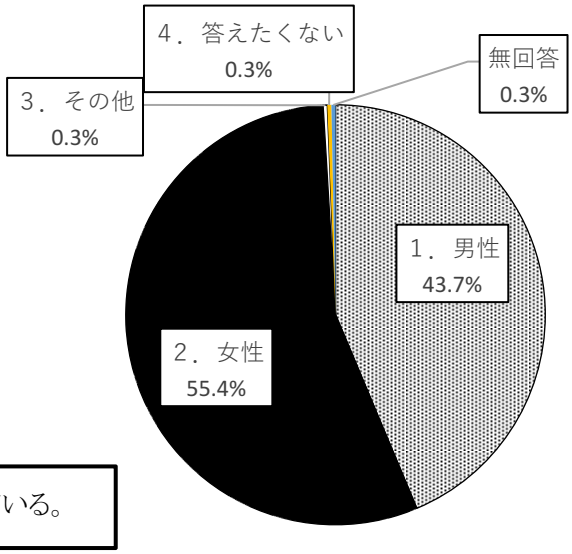
○ 自由回答については、可能な限り原文を掲載しているが、判読不能なもの、明らかな個人攻撃、数ページにわたるご意見については、本報告書には掲載していない。個別に拝読し、別途町政検討の参考とする。

2．調査の結果

あなた自身について（回答者属性）

1．性別

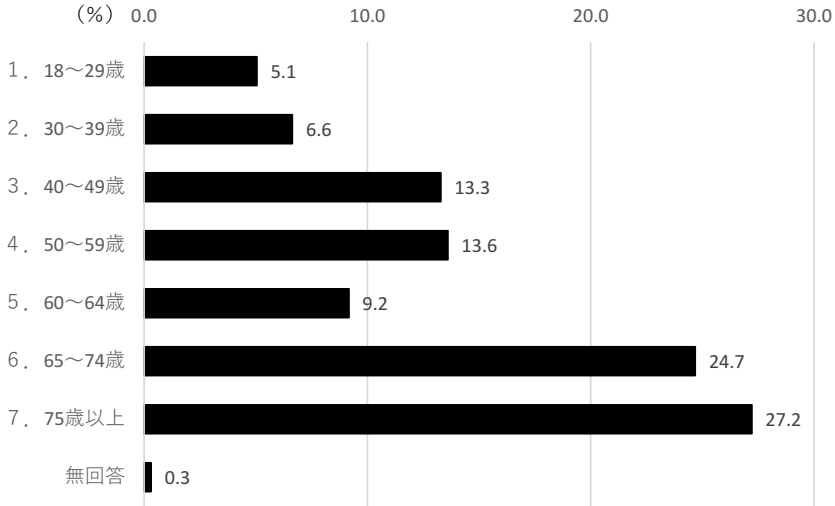
	人数（人）	割合（%）
1．男性	138	43.7
2．女性	175	55.4
3．その他	1	0.3
4．答えたくない	1	0.3
無回答	1	0.3
全体	316	100.0



回答者の性別は、女性の割合のほうが高くなっている。

2．年齢

	人数（人）	割合（%）	令和2年度国勢調査の 18 歳以上人口構成
1．18～29 歳	16	5.1	741 人（11.2%）
2．30～39 歳	21	6.6	584 人（8.8%）
3．40～49 歳	42	13.3	1,007 人（15.2%）
4．50～59 歳	43	13.6	977 人（14.7%）
5．60～64 歳	29	9.2	487 人（7.3%）
6．65～74 歳	78	24.7	1,257 人（18.9%）
7．75 歳以上	86	27.2	1,589 人（23.9%）
無回答	1	0.3	
全体	316	100.0	6,642 人（100.0%）



回答者の年齢層は、75 歳以上の割合が高くなっている。

回答者の年齢層別の構成比は、国勢調査に見られる実人口よりも 65 歳以上の比重が高くなっている。

3. 江差町に住んで何年になるか

	人数(人)	割合(%)
1. ずっと江差町に住んでいる	118	37.3
2. 一度町外に引っ越したが、再び江差町に住んで(　　)年になる	91	28.8
3. 町外から転入して(　　)年になる	102	32.3
無回答	5	1.6
全体	316	100.0

Uターン後の年数

	人数(人)	割合(%)
5年未満	13	14.3
5年以上 10 年未満	6	6.6
10 年以上 20 年未満	15	16.5
20 年以上	57	62.6
無回答	0	0.0
全体	91	100.0

転入後年数

	人数(人)	割合(%)
5年未満	20	19.6
5年以上 10 年未満	12	11.8
10 年以上 20 年未満	15	14.7
20 年以上	55	53.9
無回答	0	0.0
全体	102	100.0

居住年数※

	人数(人)	割合(%)	うちUターンの割合(%)	うち町外出身の割合(%)
5年未満	33	10.6	39.4	60.6
5年以上 10 年未満	18	5.8	33.3	66.7
10 年以上 20 年未満	30	9.6	50.0	50.0
20 年以上	230	74.0	24.8	23.9
無回答	0	0.0		
全体	311	100.0		

※江差町出身の転入者については、転入後の年数のみを数える。

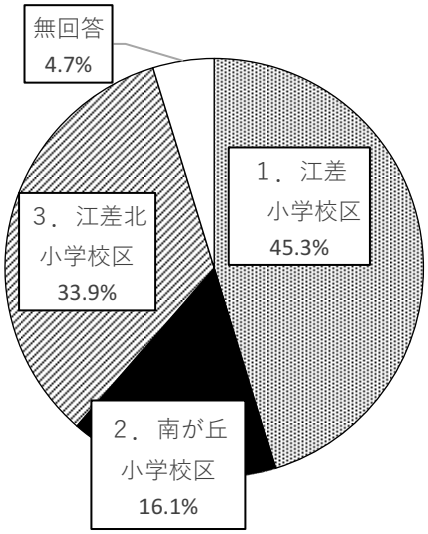
※20 年以上居住の方には、転出歴なしの江差町出身者 118 名が含まれるため、Uターンと町外出身の割合の合計は 100%には満たない。

回答者のうち、20 年以上町内に居住している方の割合が 74.0%となっている。

居住年数ごとにUターン、町外出身の別でみると、10 年未満の転入者のうち U ターンの割合が3～4割であり、町外からの転入の割合が高い。

4. 居住地

	人数（人）	割合（%）
1. 江差小学校区	143	45.3
2. 南が丘小学校区	51	16.1
3. 江差北小学校区	107	33.9
無回答	15	4.7
全体	316	100.0



回答者の居住地は、江差小学校区が最も多く、全体の約半数（45.3%）となっています。

5. 職業

	人数（人）	割合（%）
1. 農林業	9	2.8
2. 漁業	7	2.2
3. 製造業・建設業	18	5.7
4. 運輸業・通信業など	7	2.2
5. 商業・サービス業・金融業など	36	11.4
6. 教育・福祉・医療関係	37	11.7
7. 公務、団体など勤務	32	10.1
8. 家事専業	33	10.4
9. 学生	7	2.2
10. 無職（退職された方も含む）	101	32.0
11. その他	22	7.0
無回答	7	2.2
全体	316	100.0

回答者のうち 65 歳以上が約5割を占めることもあり、無職の割合が最も高くなっている。

6. 家族構成

	人数（人）	割合（%）
1. ひとり暮らし	73	23.1
2. 夫婦2人暮らし	105	33.2
3. 夫婦と子ども（子どもは全員 18 歳以上）	28	8.9
4. 夫婦と子ども（18 歳未満の子どもが1人以上いる）	36	11.4
5. 3世代以上	14	4.4
6. ひとり親（子どもは全員 18 歳以上）	16	5.1
7. ひとり親（18 歳未満の子どもが1人以上いる）	3	0.9
8. その他	36	11.4
無回答	5	1.6
全体	316	100.0

6-1. 夫婦の就労状況

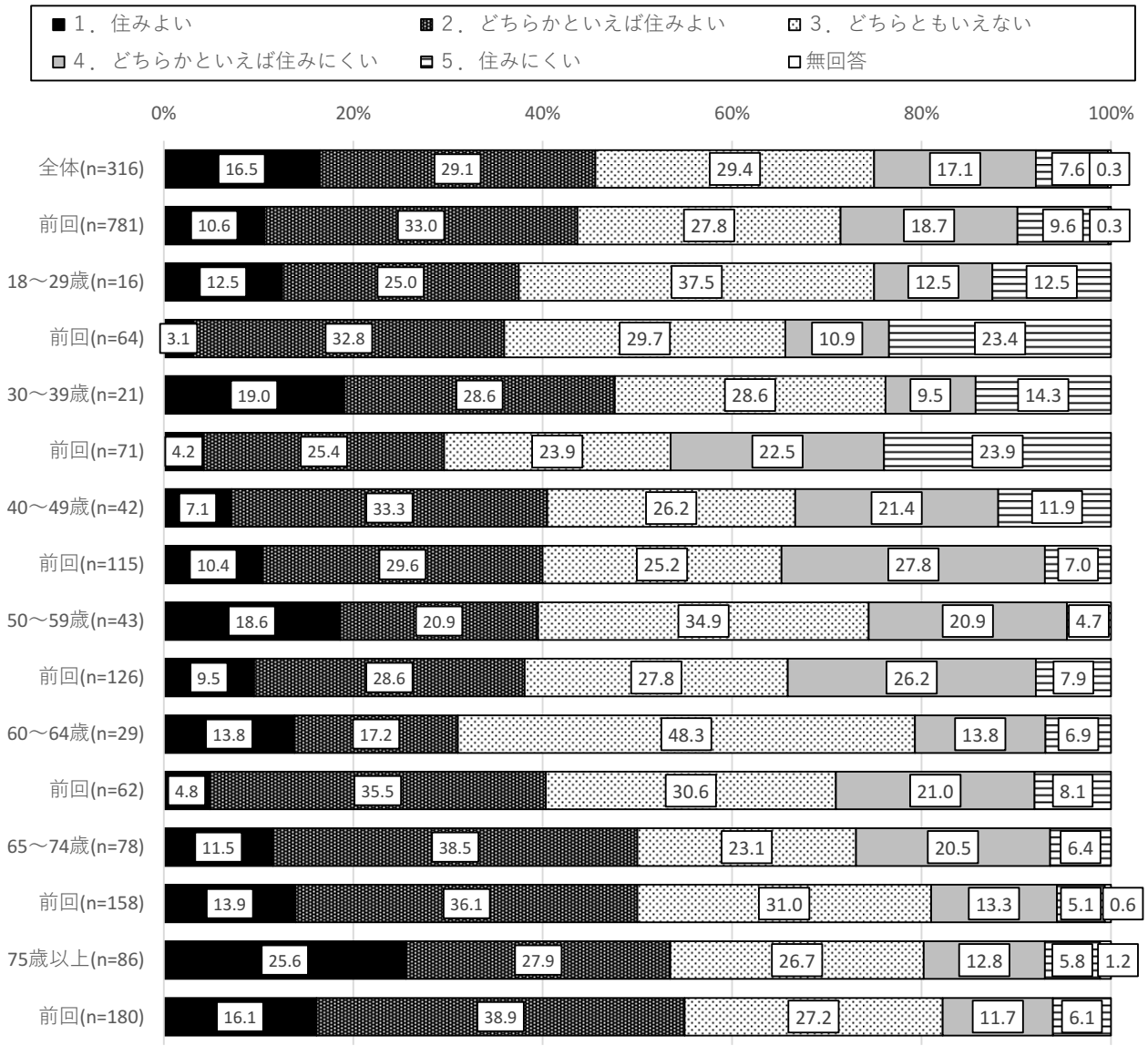
（「6. 家族構成」において選択肢2～7を回答した方を対象）

	人数（人）	割合（%）
1. とも働き	75	31.5
2. 夫が就労、妻が未就労	43	18.1
3. 夫が未就労、妻が就労	9	3.8
4. 夫婦とも未就労	31	13.0
5. その他	29	12.2
無回答	51	21.4
全体	238	100.0

回答者のうち、ひとり親世帯が 6.0%、いわゆる核家族が 53.5%（「夫婦2人暮らし」と「夫婦と子ども（子どもは全員 18 歳以上）」、「夫婦と子ども（18 歳未満のこどもが1人以上いる）」の合計）を占める。

地域での暮らしについて

7. 総合的にみた江差町の住みごこち



回答者のうち、住みよいと思う方の割合（「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合計）が 45.6%となっている。

年齢層ごとにみると、30～39 歳の住みよいと思う方の割合が増加、60～64 歳の住みよいと思う方の割合が減少している。65 歳以上の住みよいと思う方の割合が5割以上になっている。

8. この5年ほどで、江差町は住みよくなったか（転入後5年未経過の方は、転入時との比較）

【全体】

	人数（人）	割合（%）	前回調査割合（%）
1. 非常に住みよくなった	9	2.8	2.6
2. 多少住みよくなった	32	10.1	12.2
3. あまり変わらない	174	55.1	49.4
4. やや住みにくくなった	63	19.9	23.3
5. 非常に住みにくくなった	22	7.0	6.7
6. 最近転入したのでよくわからない	8	2.5	4.9
無回答	8	2.5	1.0
全体	316	100.0	100.0

8-1. 住みにくくなったと思う理由

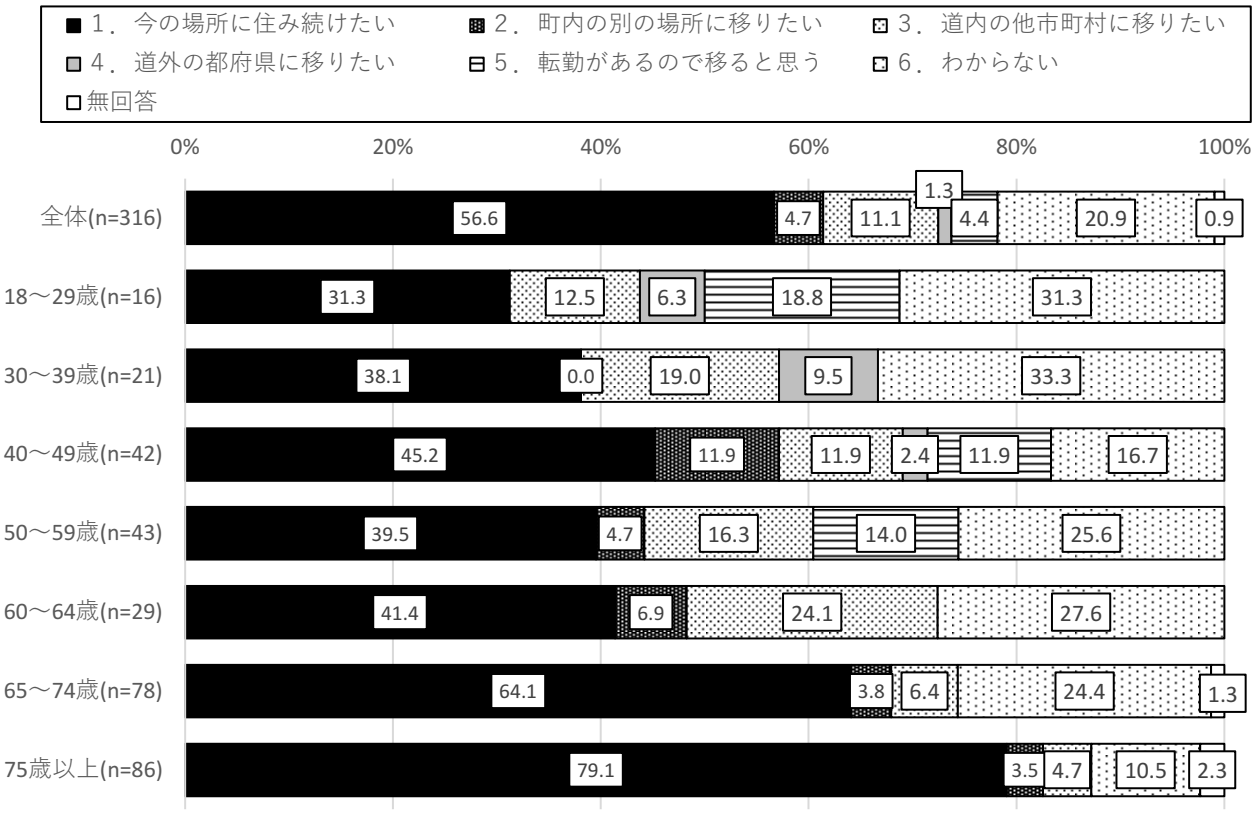
（「8. この5年ほどで～」において選択肢4または5を回答した方を対象）

	人数（人）	割合（%）
1. 新型コロナウイルスの影響から、地域が立ち直っていない	11	12.9
2. 集会所や寺社など地域の施設の管理が十分でなく、荒れてきている	21	24.7
3. 道路の維持が十分でなく、荒れてきている	18	21.2
4. 土地や山林、河川が十分に管理されず、荒れてきている	15	17.6
5. 有害鳥獣が増加し、安心して生活ができない	21	24.7
6. 働く場所が減った	29	34.1
7. 地域に活気がなくなっている	57	67.1
8. 地域の伝統行事や芸能が衰退してきた	24	28.2
9. ごみの不法投棄が増えた	12	14.1
10. 空き巣などの犯罪が増加した	3	3.5
11. 地域で冠婚葬祭などの助け合いがなくなった	11	12.9
12. 災害の際にご近所が頼りにならなくなった	13	15.3
13. 空き家が増加している	51	60.0
14. 公共交通が不便になった	50	58.8
15. 買い物できるところが減り、不便になった	46	54.1
16. 医療や福祉が縮小し、老後が不安になった	49	57.6
17. その他	4	4.7
無回答	0	0.0
全体	85	

回答者のうち、住みよくなったと回答した方の割合（「非常に住みよくなった」と「多少住みよくなった」の合計）が 12.9%となっている。

住みにくくなった理由としては、「地域に活気がなくなっている」と回答した方の割合が最も高く、ついで「空き家が増加している」、「公共交通が不便になった」の順に割合が高くなっている。

9. 今後も江差町に住み続けたいか



・転出先の希望（複数あったもの）

道内
札幌市、函館市
道外
記入なし

全体としてみると、町内に住み続けたいと回答した方の割合（「今の場所に住み続けたい」と「町内の別の場所に移りたい」の合計）は 61.1％となっている。年齢別にみると、年齢層ごとに町内に住み続けたいと回答した方の割合に大きな差がみられる。特に 18～29 歳において、町内に住み続けたいと回答した方の割合は、31.3%ほどである。

9-1. 転出したい理由**【全体】**

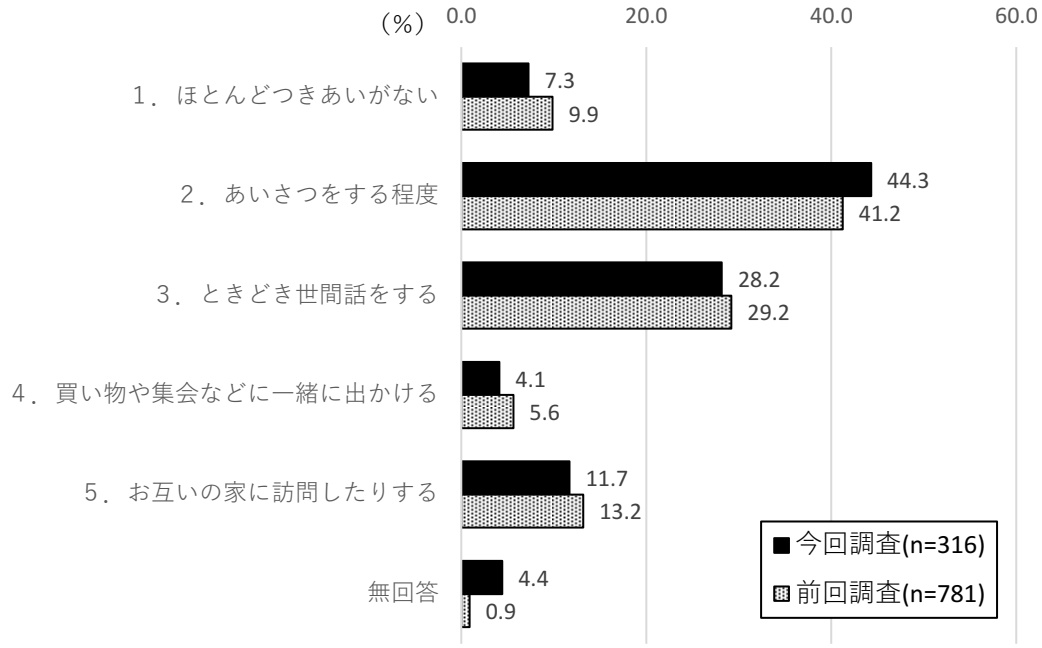
（「9. 今後も江差町に住み続けたいか」において選択肢3または4を回答した方を対象）

	人数（人）	割合（%）	前回調査割合（%）
1. 自分にあう仕事（職場）がない（自分の力を発揮できる仕事をしたい）から	7	17.9	24.0
2. 商売や事業経営に不利（生計を保つ収入が得られない）だから	0	0.0	11.2
3. 勤務地や通学地が遠いから	2	5.1	8.0
4. 交通が不便だから	19	48.7	48.0
5. 自然条件が厳しいから（冬の寒さ、雪など）	7	17.9	17.6
6. 災害や交通事故、犯罪などが不安だから	0	0.0	0.8
7. 騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	1	2.6	1.6
8. 住宅環境が悪いから	6	15.4	6.4
9. 土地代・家賃が高いから	2	5.1	8.0
10. 医療や福祉面が不安だから	22	56.4	53.6
11. 進学など、子どもの教育上の問題から	3	7.7	16.0
12. 人間関係や近所づきあいがうまくいかないから（今後不安だから）	5	12.8	9.6
13. 買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから	24	61.5	49.6
14. 余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから	20	51.3	32.8
15. その他	6	15.4	17.6
無回答	0	0.0	3.2
全体	39		

回答者のうち、「買い物や娯楽などの場が少なく、不便だから」と回答した方の割合が最も高く、ついで「医療や福祉面が不安だから」、「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」の順に割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、特に「余暇や生きがいを楽しむ場や機会が少ないから」の割合が高くなっている。

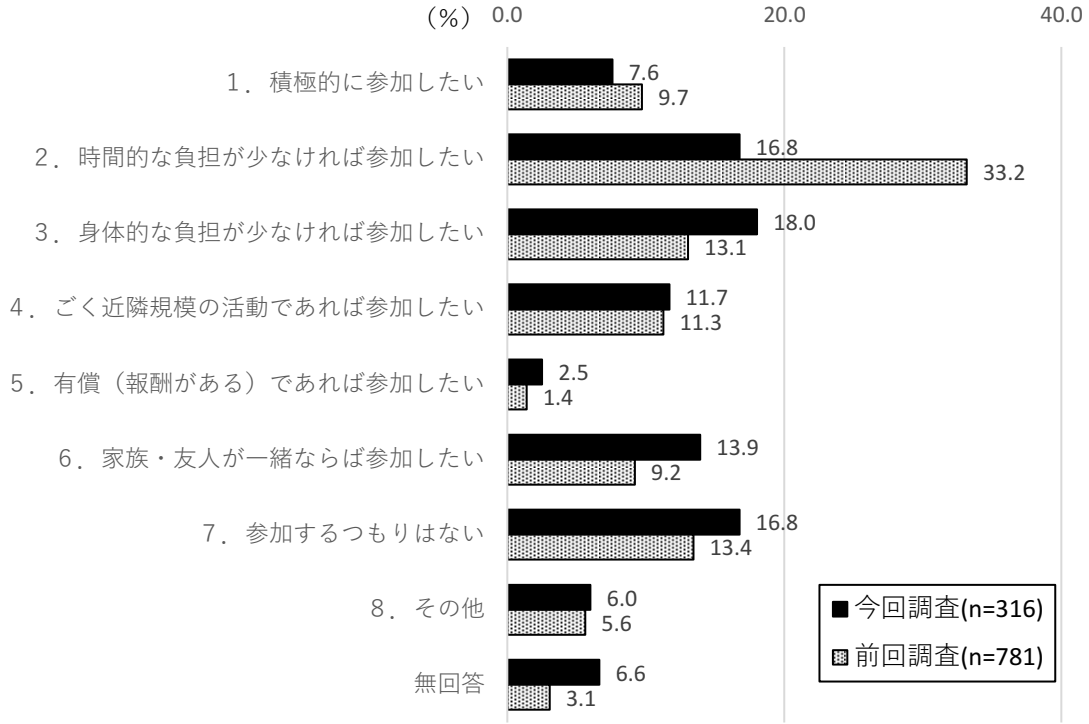
10. ご近所とのおつきあいの状況



回答者のうち、「あいさつをする程度」の方の割合が最も高く 44.3%となっている。一方で、「ほとんどつきあいがない」の方の割合は 7.3%となっている。

前回調査と大きな傾向の違いはみられない。

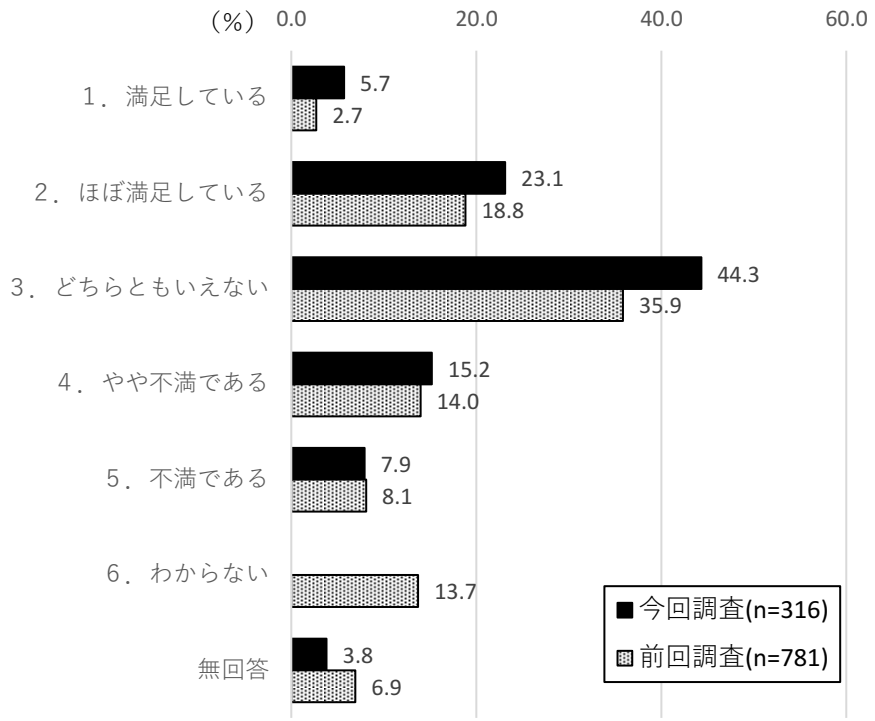
11. 地域活動への参加意向



回答者のうち、「身体的な負担が少なければ参加したい」と回答した方の割合が最も高く 18.0%となっている。前回調査と比較すると、「時間的な負担が少なければ参加したい」と回答した方の割合が大きく減少しています。

まちの政策について

12. 総合的にみた江差町の取組みへの満足度



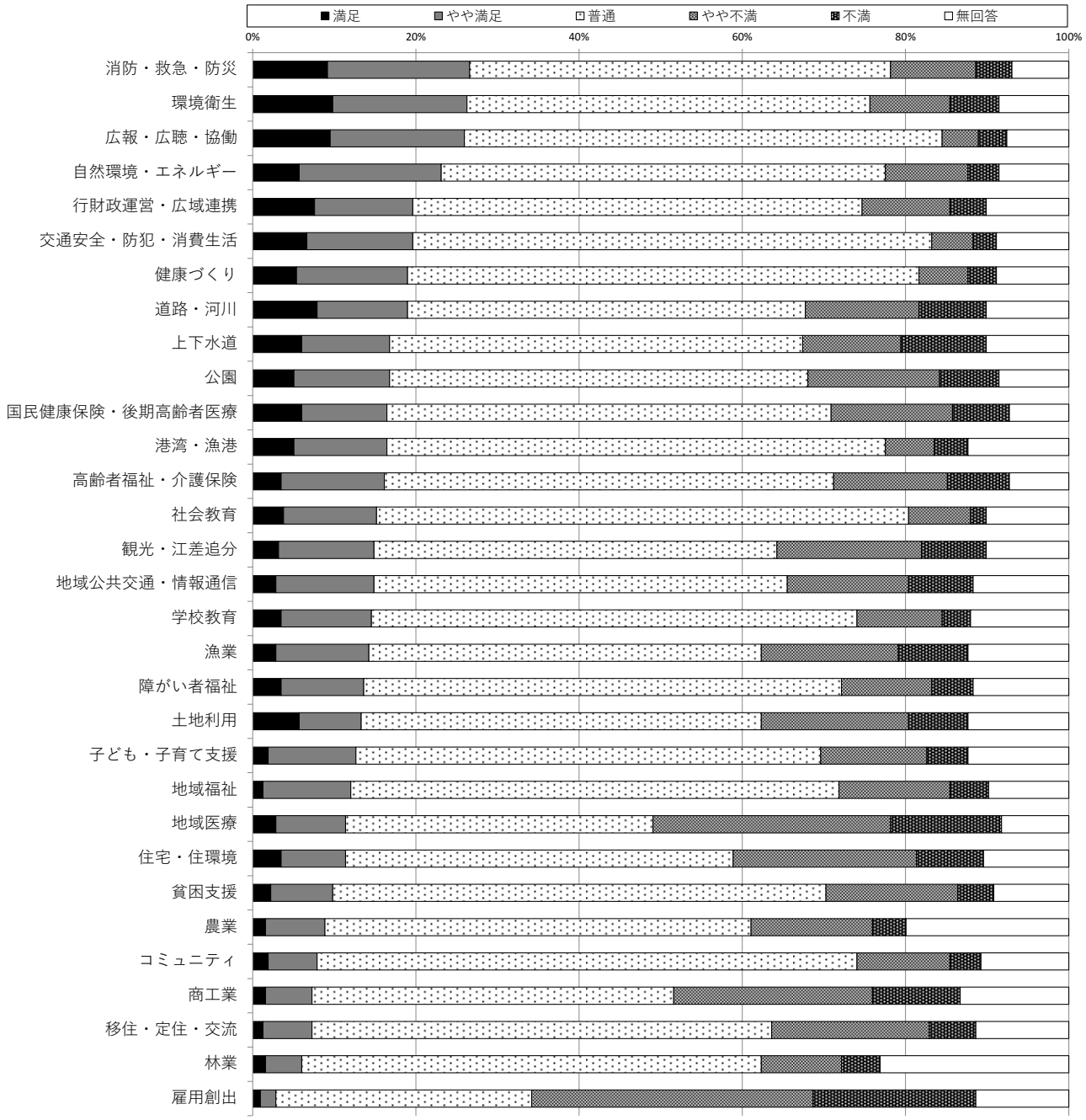
全体としては、満足度（「満足している」と「ほぼ満足している」の合計）が 28.8%、不満度（「やや不満である」と「不満である」の合計）が 23.1%と、満足度のほうが高くなっている。

前回調査と比較すると、満足度が高くなっている。（選択肢が異なるため、比較は参考として行っている）

12-1. 施策ごとの満足度

		満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
産業分野	1. 農業	1.6	7.3	52.2	14.9	4.1	19.9
	2. 林業	1.6	4.4	56.3	9.8	4.7	23.1
	3. 漁業	2.8	11.4	48.1	16.8	8.5	12.3
	4. 商工業	1.6	5.7	44.3	24.4	10.8	13.3
	5. 雇用創出	0.9	1.9	31.3	34.5	19.9	11.4
	6. 観光・江差追分	3.2	11.7	49.4	17.7	7.9	10.1
民生・教育等分野	1. 地域福祉	1.3	10.8	59.8	13.6	4.7	9.8
	2. 子ども・子育て支援	1.9	10.8	57.0	13.0	5.1	12.3
	3. 高齢者福祉・介護保険	3.5	12.7	55.1	13.9	7.6	7.3
	4. 障がい者福祉	3.5	10.1	58.5	11.1	5.1	11.7
	5. 健康づくり	5.4	13.6	62.7	6.0	3.5	8.9
	6. 地域医療	2.8	8.5	37.7	29.1	13.6	8.2
	7. 貧困支援	2.2	7.6	60.4	16.1	4.4	9.2
	8. 国民健康保険、後期高齢者医療	6.0	10.4	54.4	14.9	7.0	7.3
	9. 学校教育	3.5	11.1	59.5	10.4	3.5	12.0
	10. 社会教育	3.8	11.4	65.2	7.6	1.9	10.1
	11. コミュニティ	1.9	6.0	66.1	11.4	3.8	10.8
	12. 移住・定住・交流	1.3	6.0	56.3	19.3	5.7	11.4
生活環境分野	1. 土地利用	5.7	7.6	49.1	18.0	7.3	12.3
	2. 住宅・住環境	3.5	7.9	47.5	22.5	8.2	10.4
	3. 道路・河川	7.9	11.1	48.7	13.9	8.2	10.1
	4. 港湾・漁港	5.1	11.4	61.1	6.0	4.1	12.3
	5. 地域公共交通・情報通信	2.8	12.0	50.6	14.9	7.9	11.7
	6. 上下水道	6.0	10.8	50.6	12.0	10.4	10.1
	7. 環境衛生	9.8	16.5	49.4	9.8	6.0	8.5
	8. 自然環境・エネルギー	5.7	17.4	54.4	10.1	3.8	8.5
	9. 公園	5.1	11.7	51.3	16.1	7.3	8.5
	10. 消防、救急、防災	9.2	17.4	51.6	10.4	4.4	7.0
	11. 交通安全、防犯、消費生活	6.6	13.0	63.6	5.1	2.8	8.9
町政推進分野	1. 行財政運営・広域連携	7.6	12.0	55.1	10.8	4.4	10.1
	2. 広報・広聴・協働	9.5	16.5	58.5	4.4	3.5	7.6

施策満足度（「満足」、「やや満足」の割合の合計が高い順）



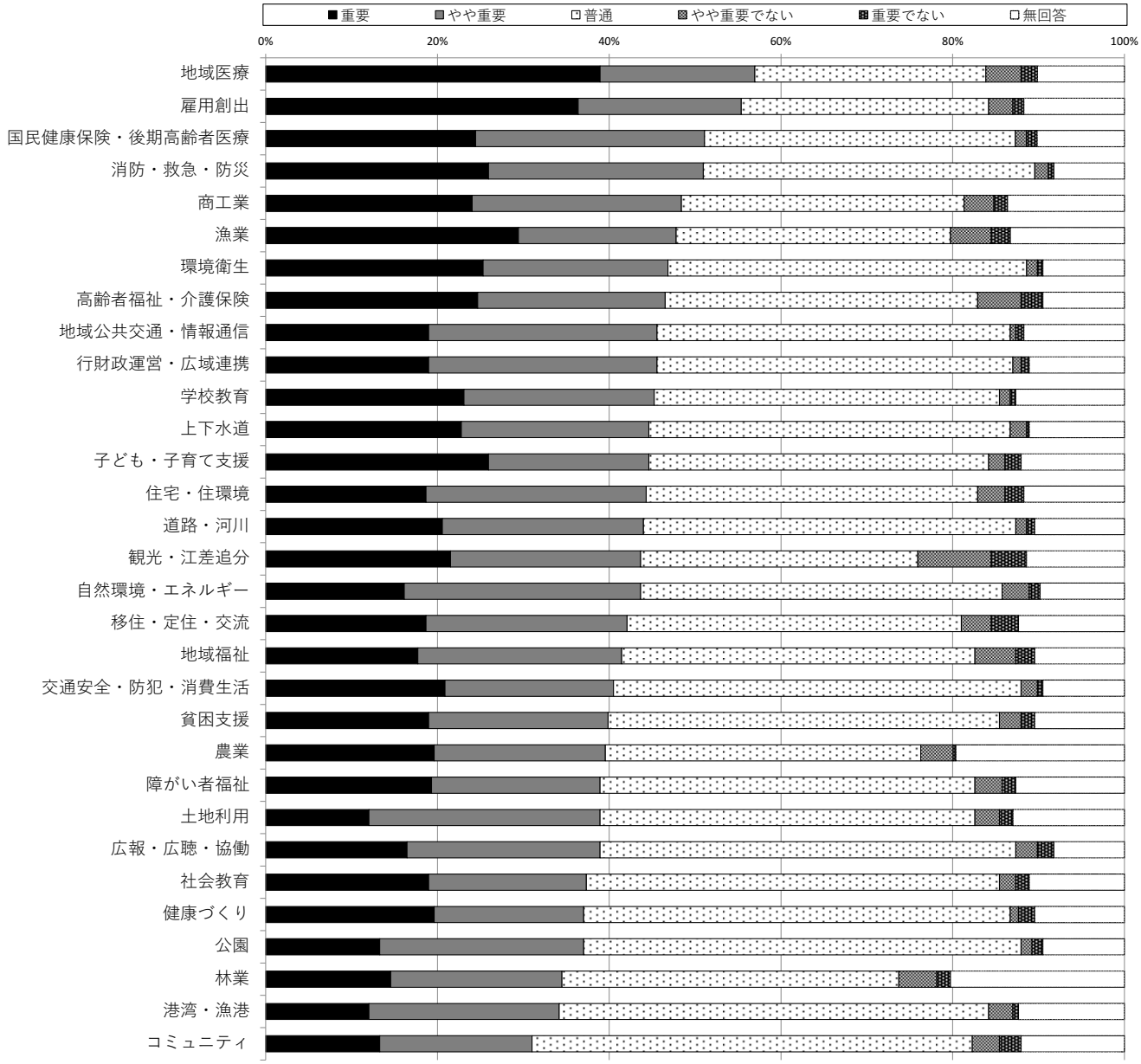
満足度（「満足」と「やや満足」の合計）は、「消防・救急・防災」が最も高く、次いで「環境衛生」、「広報・広聴・協働」が高くなっている。

一方、満足度が最も低いのは「雇用創出」で、次いで「林業」、「移住・定住・交流」となっている。また、不満度（「やや不満」と「不満」の合計）は「雇用創出」が特に高く、50%を超えている。

■重要度

		重要	やや重要	普通	やや重要でない	重要でない	無回答
産業分野	1. 農業	19.6	19.9	36.7	3.8	0.3	19.6
	2. 林業	14.6	19.9	39.2	4.4	1.6	20.3
	3. 漁業	29.4	18.4	32.0	4.7	2.2	13.3
	4. 商工業	24.1	24.4	32.9	3.5	1.6	13.6
	5. 雇用創出	36.4	19.0	28.8	2.8	1.3	11.7
	6. 観光・江差追分	21.5	22.2	32.3	8.5	4.1	11.4
民生・教育等分野	1. 地域福祉	17.7	23.7	41.1	4.7	2.2	10.4
	2. 子ども・子育て支援	25.9	18.7	39.6	1.9	1.9	12.0
	3. 高齢者福祉・介護保険	24.7	21.8	36.4	5.1	2.5	9.5
	4. 障がい者福祉	19.3	19.6	43.7	3.2	1.6	12.7
	5. 健康づくり	19.6	17.4	49.7	0.9	1.9	10.4
	6. 地域医療	38.9	18.0	26.9	4.1	1.9	10.1
	7. 貧困支援	19.0	20.9	45.6	2.5	1.6	10.4
	8. 国民健康保険、後期高齢者医療	24.4	26.7	36.2	1.3	1.3	10.2
	9. 学校教育	23.1	22.2	40.2	1.3	0.6	12.7
	10. 社会教育	19.0	18.4	48.1	1.9	1.6	11.1
	11. コミュニティ	13.3	17.7	51.3	3.2	2.5	12.0
	12. 移住・定住・交流	18.7	23.4	38.9	3.5	3.2	12.3
生活環境分野	1. 土地利用	12.0	26.9	43.7	2.8	1.6	13.0
	2. 住宅・住環境	18.7	25.6	38.6	3.2	2.2	11.7
	3. 道路・河川	20.6	23.4	43.4	1.3	0.9	10.4
	4. 港湾・漁港	12.0	22.2	50.0	2.8	0.6	12.3
	5. 地域公共交通・情報通信	19.0	26.6	41.1	0.6	0.9	11.7
	6. 上下水道	22.8	21.8	42.1	1.9	0.3	11.1
	7. 環境衛生	25.3	21.5	41.8	1.3	0.6	9.5
	8. 自然環境・エネルギー	16.1	27.5	42.1	3.2	1.3	9.8
	9. 公園	13.3	23.7	50.9	1.3	1.3	9.5
	10. 消防、救急、防災	25.9	25.0	38.6	1.6	0.6	8.2
	11. 交通安全、防犯、消費生活	20.9	19.6	47.5	1.9	0.6	9.5
町政推進分野	1. 行財政運営・広域連携	19.0	26.6	41.5	0.9	0.9	11.1
	2. 広報・広聴・協働	16.5	22.5	48.4	2.5	1.9	8.2

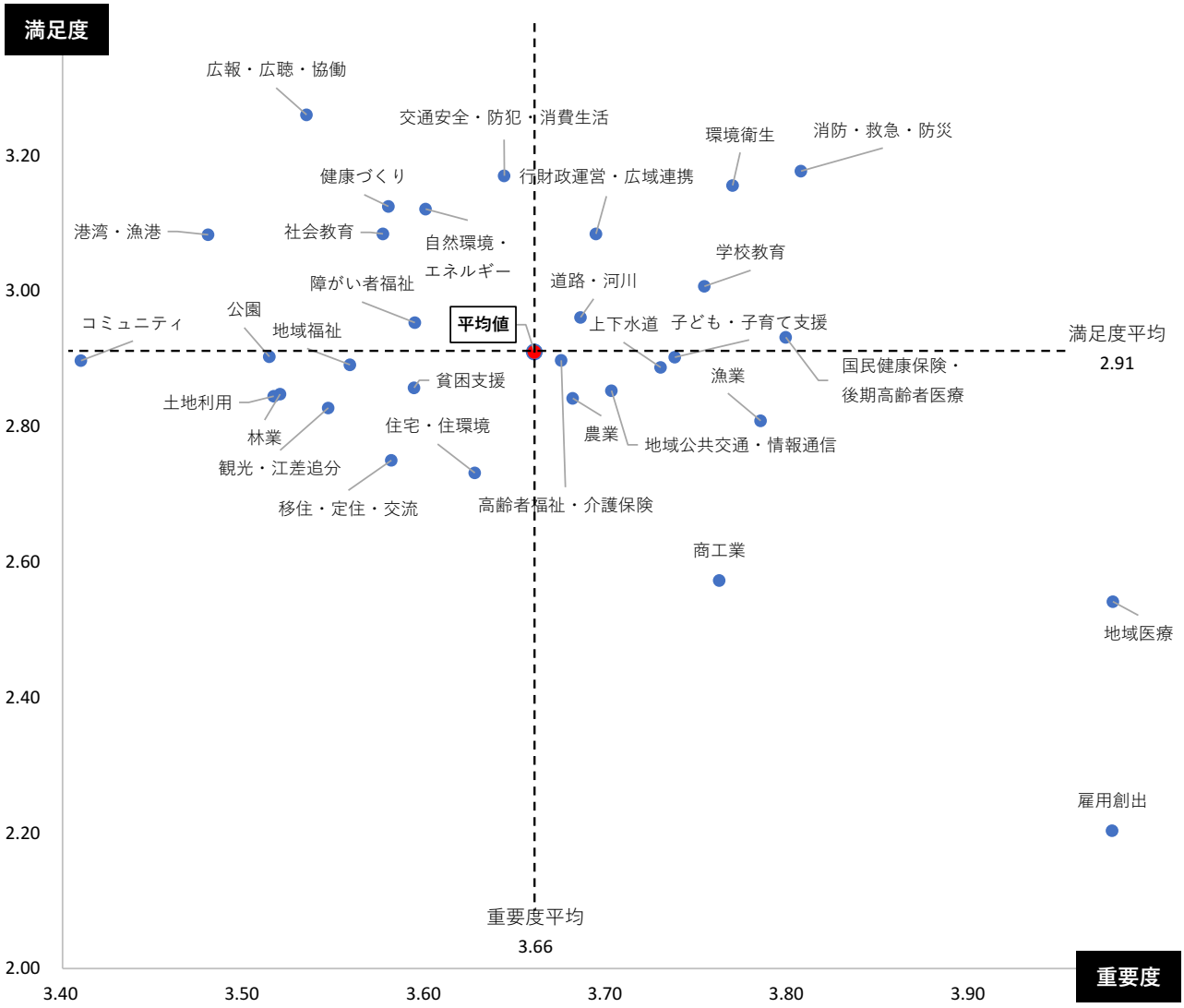
施策重要度（「重要」、「やや重要」の割合の合計が高い順）



重要度（「重要」と「やや重要」の合計）は、「地域医療」が最も高く、ついで「雇用創出」、「国民健康保険・後期高齢者医療」が高くなっている。

一方、重要度が最も低いのは「コミュニティ」で、ついで「港湾・漁港」、「林業」となっている。

■CS分析



★グラフの見方

重要度は平均より低く 満足度は平均より高い 【維持分野】	重要度が平均より高く 満足度も平均より高い 【重点維持分野】
重要度は平均より低く 満足度も平均より低い 【改善分野】	重要度は平均より高く 満足度は平均より低い 【重要改善分野】

点数について
満足(重要):5点
やや満足(やや重要):4点
普通:3点
やや不満(やや重要でない):2点
不満(重要でない):1点

として、各選択肢の点数を、それを回答した人数で乗じ、その合計を回答者総数(無回答者を除く)で除したものを各施策の得点としている。

★重要改善分野に該当したもの

産業分野	農業
	漁業
	商工業
	雇用創出
民生・教育等分野	子ども・子育て支援
	高齢者福祉・介護保険
	地域医療
生活環境分野	地域公共交通、情報通信
	上下水道

※前回の重要改善分野

産業分野	農業
	漁業
	商業
	工業、企業誘致、雇用創出
	観光
民生・教育等分野	医療
生活環境分野	公共交通機関、情報通信
	住宅、宅地
	水道、下水道

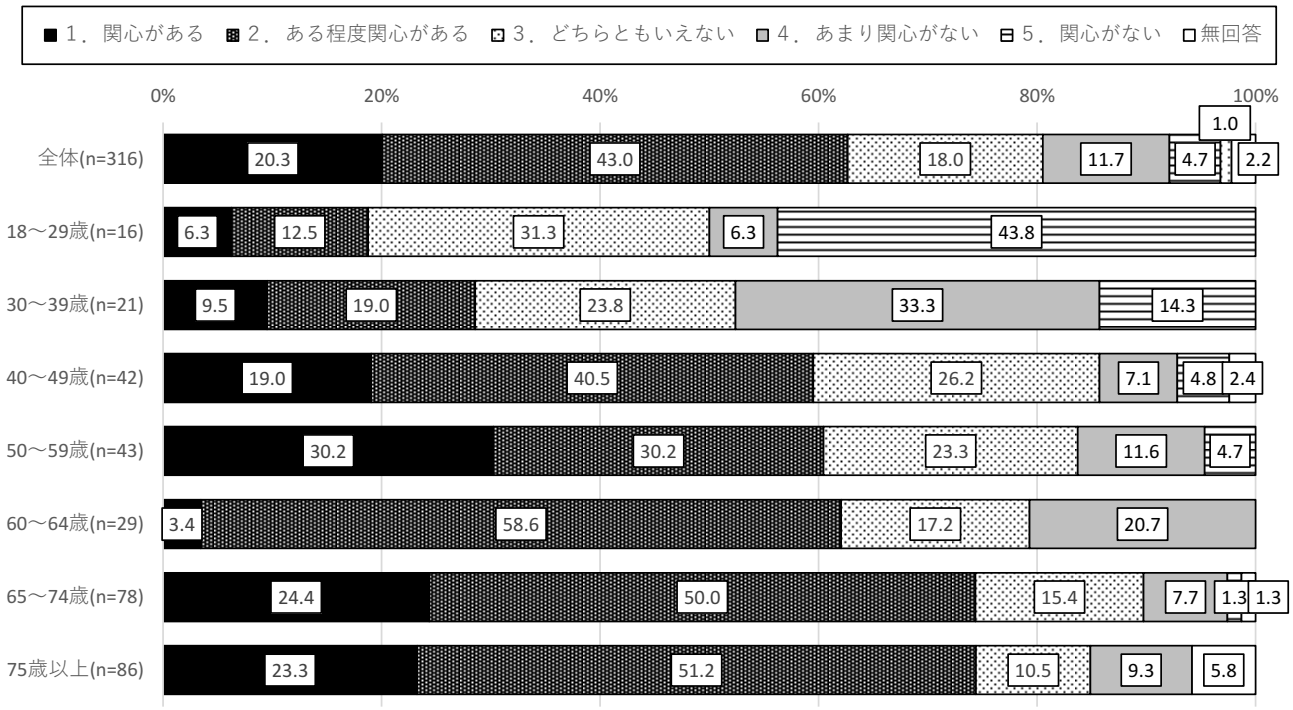
満足度、重要度をそれぞれ点数化すると、満足度（2.91 点）が「普通（3点）」を下回っており、全体的な満足度は必ずしも高いとはいえない。

特に重要改善度が高い（CS分析グラフの右下に位置している）のは「雇用創出」「地域医療」となっている。

前回調査と比較すると、おおむね類似した項目が重要改善分野となっているが、「観光」「住宅、宅地」が今回は重要改善分野からはずれている。

町政について

14. 町政にどの程度関心があるか

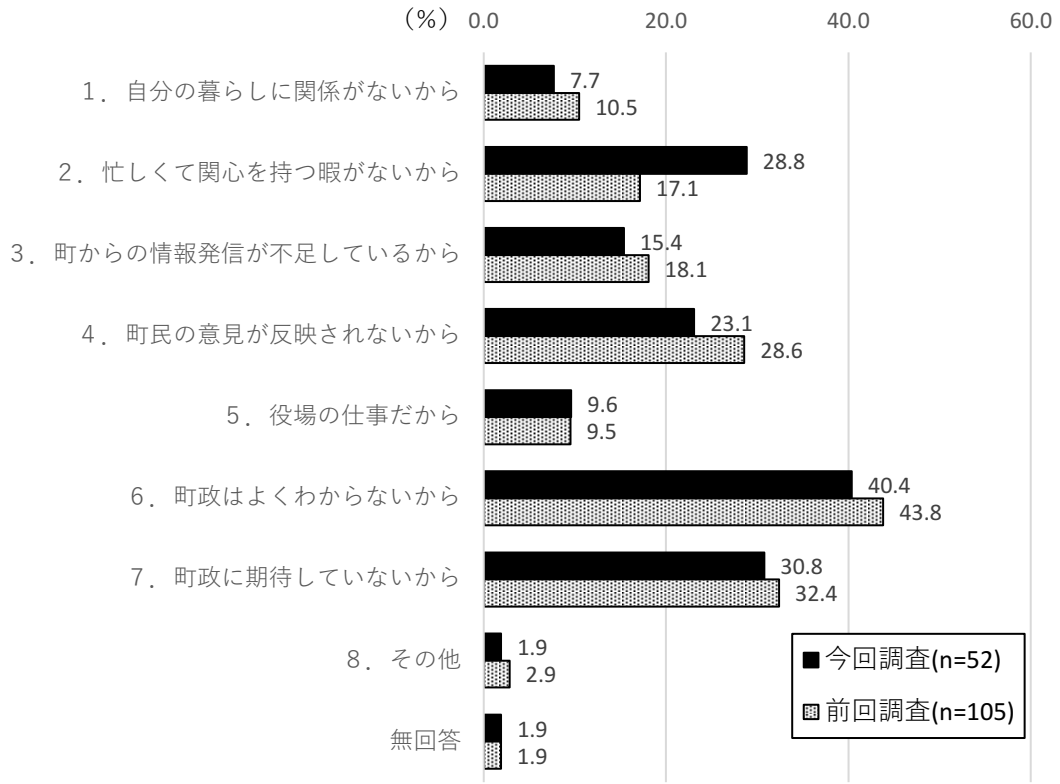


回答者のうち、町政に関心がある方の割合（「関心がある」と「ある程度関心がある」の合計）は 63.3%となっている。

年齢層別にみると、18 歳～29 歳の町政への関心（「関心がある」と「ある程度関心がある」の合計）が特に低く 18.8%となっている。また、最も町政に関心があったのは、65 歳以上で、それぞれ 74.4%となっている。

14-1. 町政に関心がない理由

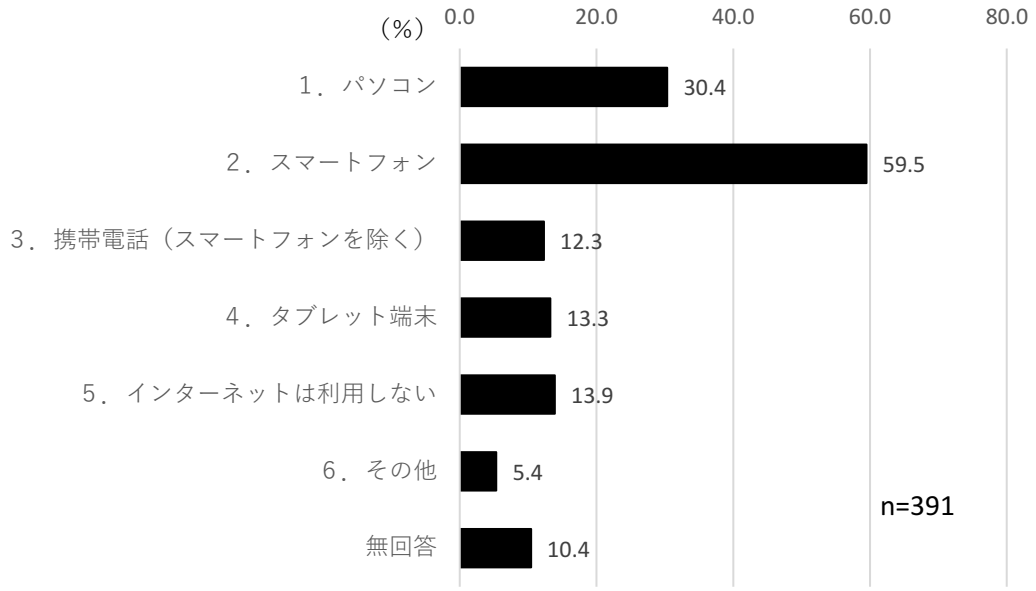
（「17. 町政にどの程度関心があるか」において選択肢4または5を回答した方を対象）



「町政はよくわからないから」と回答した方の割合が最も高く、ついで「町政に期待していないから」、「町民の意見が反映されないから」と回答した方の割合が高くなっている。

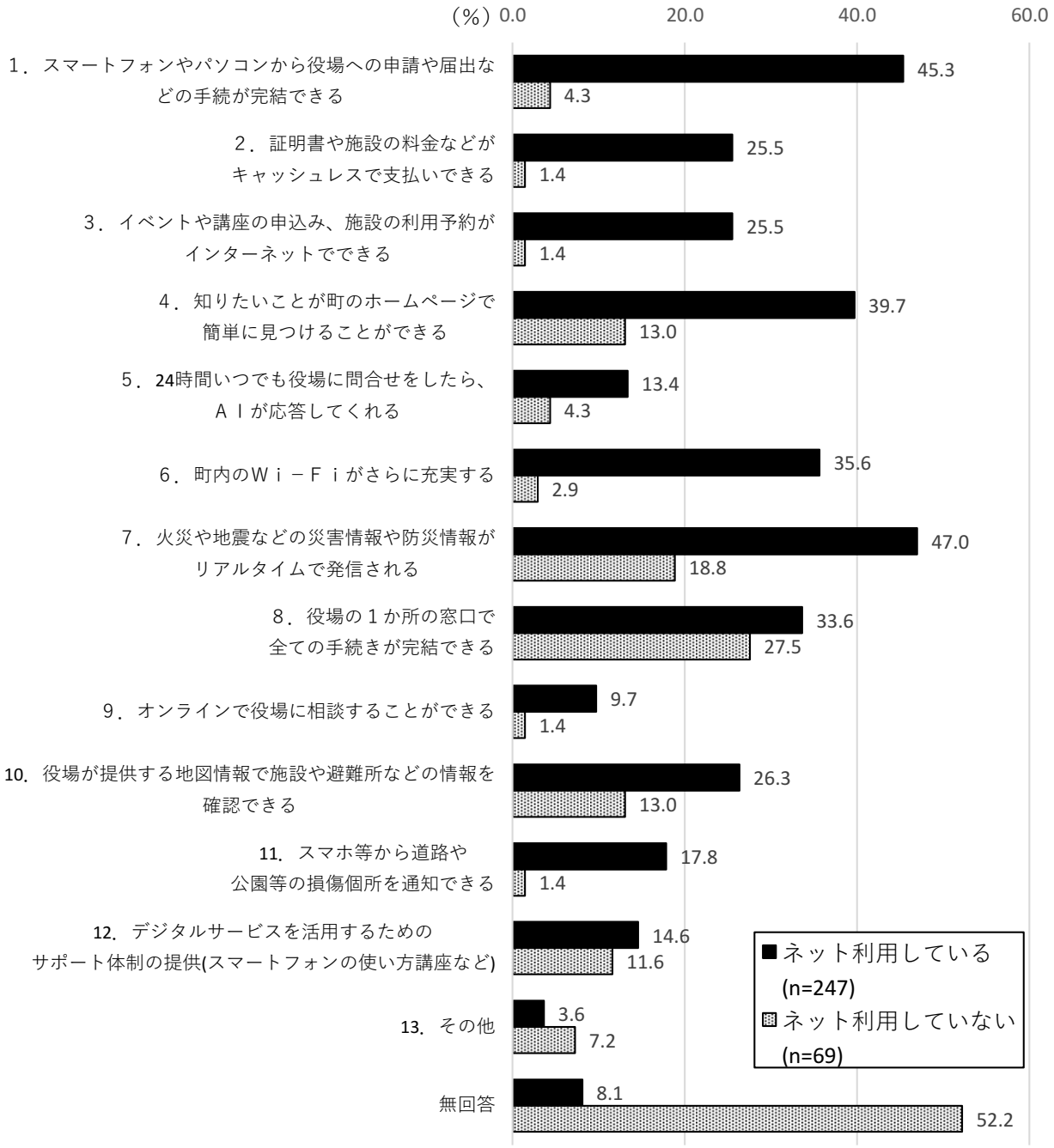
前回調査と比較すると、「忙しくて関心を持つ暇がないから」と回答した方の割合が高くなっている。

15. インターネット利用時の端末



「スマートフォン」と回答した方の割合が最も高くなっている。「インターネットは利用しない」と回答した方の割合が 13.9%となっている。

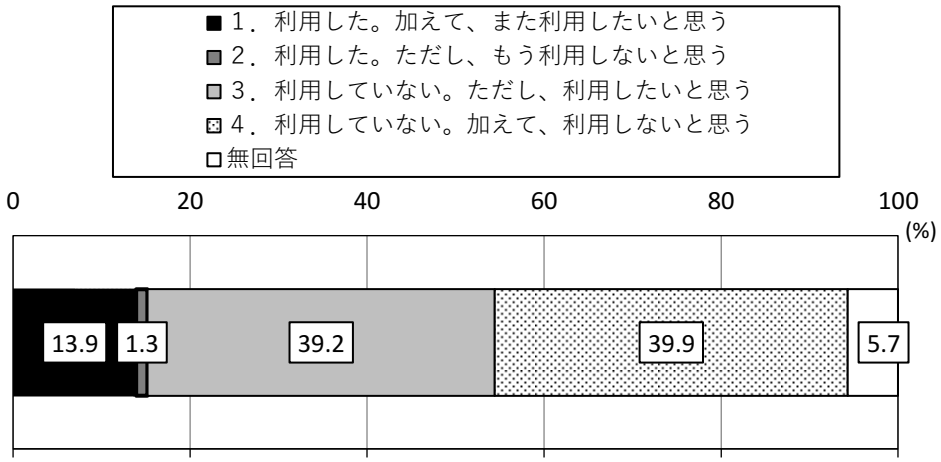
15-1. 行政のデジタル化に期待すること



インターネットを利用している方は、災害・防災情報の発信を回答した方の割合が最も高く、ついで端末から手続きができることの割合が高くなっている。

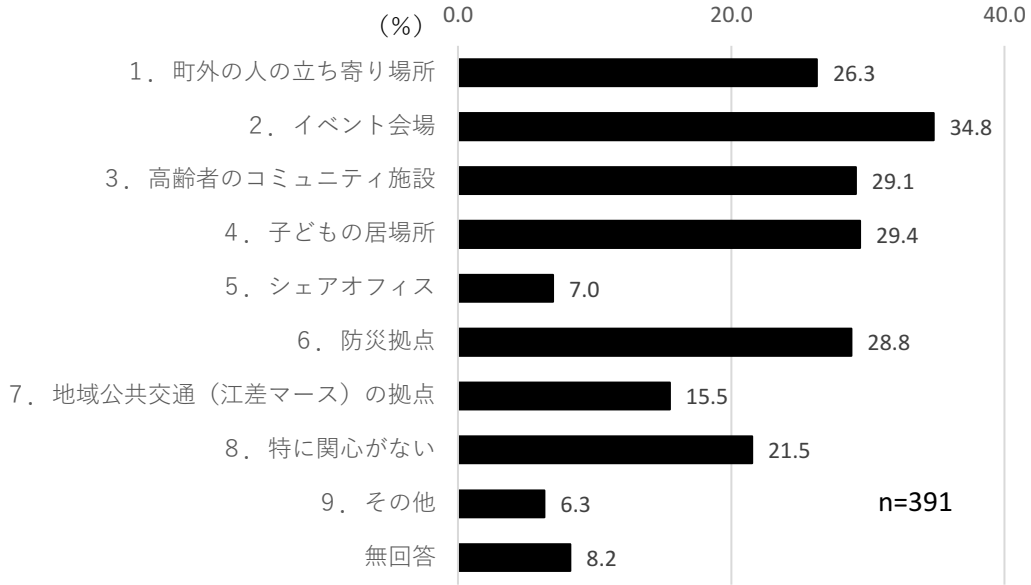
インターネットを利用していない方は、約半数が回答していませんが、回答されたものの中では、手続きのワンストップ化を回答した方の割合が最も高く、ついで災害・防災情報の発信の割合が高くなっている。

16. コミュニティプラザえさしの利用状況



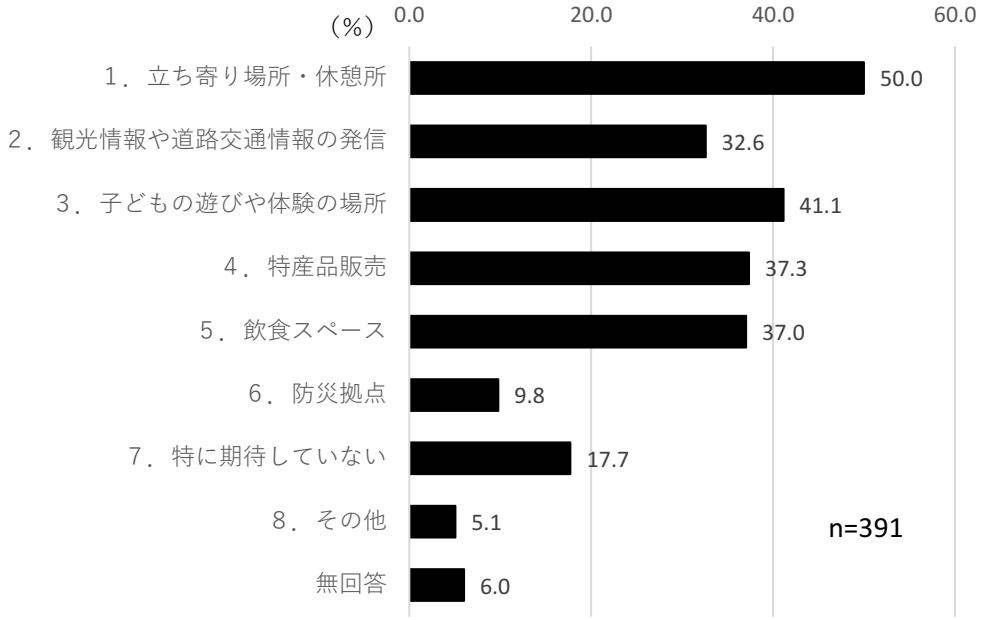
「利用していない。加えて、利用しないと思う」と回答した方の割合が最も高くなっている。今後利用意向を持っている方の割合（「利用した。加えて、また利用したいと思う」と「利用していない。ただし、利用したいと思う」の合計）が、半数を超えています。

16-1. コミュニティプラザえさしに期待する機能



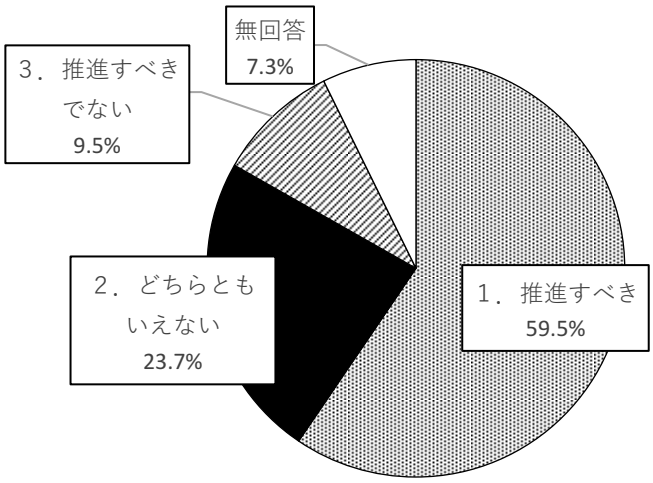
「イベント会場」と回答した方の割合が最も高く、ついで「子どもの居場所」と回答した方の割合が高くなっている。

17.「北の江の島構想」の新たな拠点に期待する機能



「立ち寄り場所・休憩所」と回答した方の割合が最も高く、ついで「子どもの遊びや体験の場所」と回答した方の割合が高くなっている。

18. 再生可能エネルギー施策の今後について



「推進すべき」と回答した方の割合が約6割を占めている。

18 に関して自由意見（主なご意見）

太陽光、風力、地熱発電と蓄電を充実して財政の安定化を図って欲しい。
発電したエネルギーを町民へ配電して、電気料金を安定させるといいと思います。
原子力エネルギーに頼らないエネルギーの創出をして欲しい。
「追分」と同じくらいの重要施策として町民に理解できるように努めてほしい。
近年、地球温暖化による自然災害が増えております。また、たびたび起きる地震でも停電になったりしております。エネルギー自給率が低い日本にとって今後必要な事だと思います。
一昨年、元山地区に大型風車5基設置しました。しかし、ただ設置すれば良いのではなく、景観も必要な気がします。たとえば、今後洋上風力建設を考えているのであれば、例として寿都町の海岸線に一直線に立れられた風車は、とても美しく感じられる。
風力発電に関わる事業で、町に税収が増加することはメリットと考えるか　年月が立ち風車の撤去などに関わる費用が町負担になる事は避けるよう対応対策をしていただきたい。
景観や騒音など、海外でも事例のない民家に近い位置に大きな洋上風車を設置するには、充分な合意形成へのプロセスが必要。風車が漁場調整や将来の漁業の防げにならない事を願っています。
桧山沖のエネルギー開発。生物、人間にとっても悪影響だと思う。中止してほしい。
風車や太陽光パネルの「設置」だけでなく、耐用年数が過ぎた後の処分等の課題（費用）はクリアできていますか？　また、売電だけでなく、町内への供給や各家庭への蓄電池の設置補助など、災害対策も兼ねたり、町内の電気料金補助で生活費の圧迫緩和を進めてほしい。
設備の廃棄・撤去（更新時等）はどのように行われるか知りたい。
再生可能エネルギー→まずこれがどんなものか理解してない。理解してない物を推進できるはずがない。具体的に、どんなエネルギーの事を言っているのか。
どうゆう事なのかわかりません。再生可能エネルギー…てなんですか。

ご意見

自由記入欄に寄せられたご意見（101件）のうち、主なご意見は次のとおり。

（1）観光・景観に関すること

■北の江の島構想・かもめ島の整備（16件）

江差の拠点はかもめ島だと思うので、人口減はいなめないと思うが、町民だけでなく町外の人が集まる様な施設等で活気が出ればと思う。（島の上の方にも）
北の江の島構想について見直しすべきである。他町で行っている「道の駅」にはなれない。地産地消を考えているが当町では出来ない。カモメ島入口の工事費、開陽丸管理棟の工事費について町民に周知すべきである。

■まちの美化（3件）

町の環境・美化に力を入れてほしいです。空き家が多く、家や電柱にはツタが生え上がり、周辺は草で覆われています。空き家の解体は難しいでしょうが草刈等（道路側）は町でやるべきと思います。衰退していく町に拍車をかけるようです。

■洋上風力発電（1件）

海洋風力発電の計画が当町に来ている様ですが、カメモ島の景観に影響が出る様な事になれば、取り返しのつかない事にならないかと心配しております。そのあたりの件について充分考慮されます様、特にお願い致します。

（2）こどもに関すること（8件）

こども達がボール遊びなどできる屋内施設、自由に開放している場所があると良いと思います。
町内に公園がなく、こどもたちが遊んだり集う場所があまりなさすぎると思う。公園はもちろん、かもめ島の前浜ももっと海水浴の場として整備したりキャンプ場の充実をやるべき。
家族連れで遊びに行ける公園を整備してほしい（例：道の駅・温泉・買い物・遊具の充実等を一ヶ所に集約した場所があれば、集客（観光客等含む）の可能性も考えられる）。
学校遊具の設置やエコーの完成で子どもが外に出て遊ぶ機会が増えました。子どもが自分の足で歩いて行ける場所の環境整備はありがたいです。熊の心配が少しでも軽減され、安心して外出できればと思っています。
厚沢部町のような塾をつくってほしいです

（3）議会等との協働のまちづくりに関すること（7件）

高齢の町議会議員について、若い世代へのバトンタッチを検討してほしい
最近町に活気がない。一般の住民や議員さん、役場の職員、皆こぞって声かけ合い小さな事からやって輪を広げ、町を元気にしてほしい。

（4）ごみ回収に関すること（4件）

現在、燃やせるゴミと燃やせないゴミの2種類しかなく、分別が楽な一方、環境対策としてどうなのか、という思いがある。ダンボールや新聞がかさばるので、古紙の回収をしてほしい。
燃えないゴミの回収を1週間に1度実施してほしい。
大型ゴミ回収日がない。その結果廃墟が増えているように感じます。海岸のゴミもひどく、汚染も心配です。一向に解消されていません。
不燃ごみの収集日が少なすぎる。

（5）その他

進学で江差を離れて初めて江差町のよさを実感しました。でも江差に戻りたいと思っても職が限られていて、現在の江差町では夢は叶えにくいのが現実だと思います。高齢者や障がい者への対応も確かに大事ですが、未来を作るのはどこの層なのかを考えたまちづくりを期待しています。
江差町全体をどうのこうのと書いていますが、それは江差町の街中をどうにかしようとしているのであって、水堀からこっち側のことに対してあんまり関心がないように感じます。広報などでも江差町全体が祭り 1 色にみたいに書いていますが、こちらはほとんどっていうか関係ありませんし、それは誤解を招くのでやめた方がいいと思います。
エコーより体育館等の施設を作って欲しかった。他町に比べて見劣りする。
空き家の情報提供（賃貸、売買、譲渡）を推進して欲しい（移住含め）。
若い人の働く場所がほしい。桧山に対する道の支援が少なすぎる。気候的にも住み易い土地柄。海と云う資産に予算が欲しい！
役場にエアコン等の冷房を設置した方がいいと思う。町のために働いてくれているのにあんまり暑くて大変そうでした。
少子高齢化による働き手不足に対し、高齢者の力を借りる。その為には健康が重要で、道立江差病院を中核に近隣町国保病院との連携強化を図ることを重視し、観光を中心とした町づくりに失敗を恐れず大胆な政策を打つべき。観光には、宿泊、食事（飲食店）をする場所が重要で、生計が出来る収入があって、後継者も育つと考えます。
限られた財政で高齢者ばかりになる町を魅力的に…は無理かも知れませんが、そんな中でも一生懸命に何とかしようと尽力下さっている方々に感謝しています。元気で健康な高齢者をめざし日々努力します！！
私たちは年を取りましたが、若い人たちがこの町で暮して行けるような仕事、人をつくっていってほしい。大変でしょうがガンバッテほしい。
昔から歴史のある江差をいっそう大切に、夢のあるまちになってほしく思います。